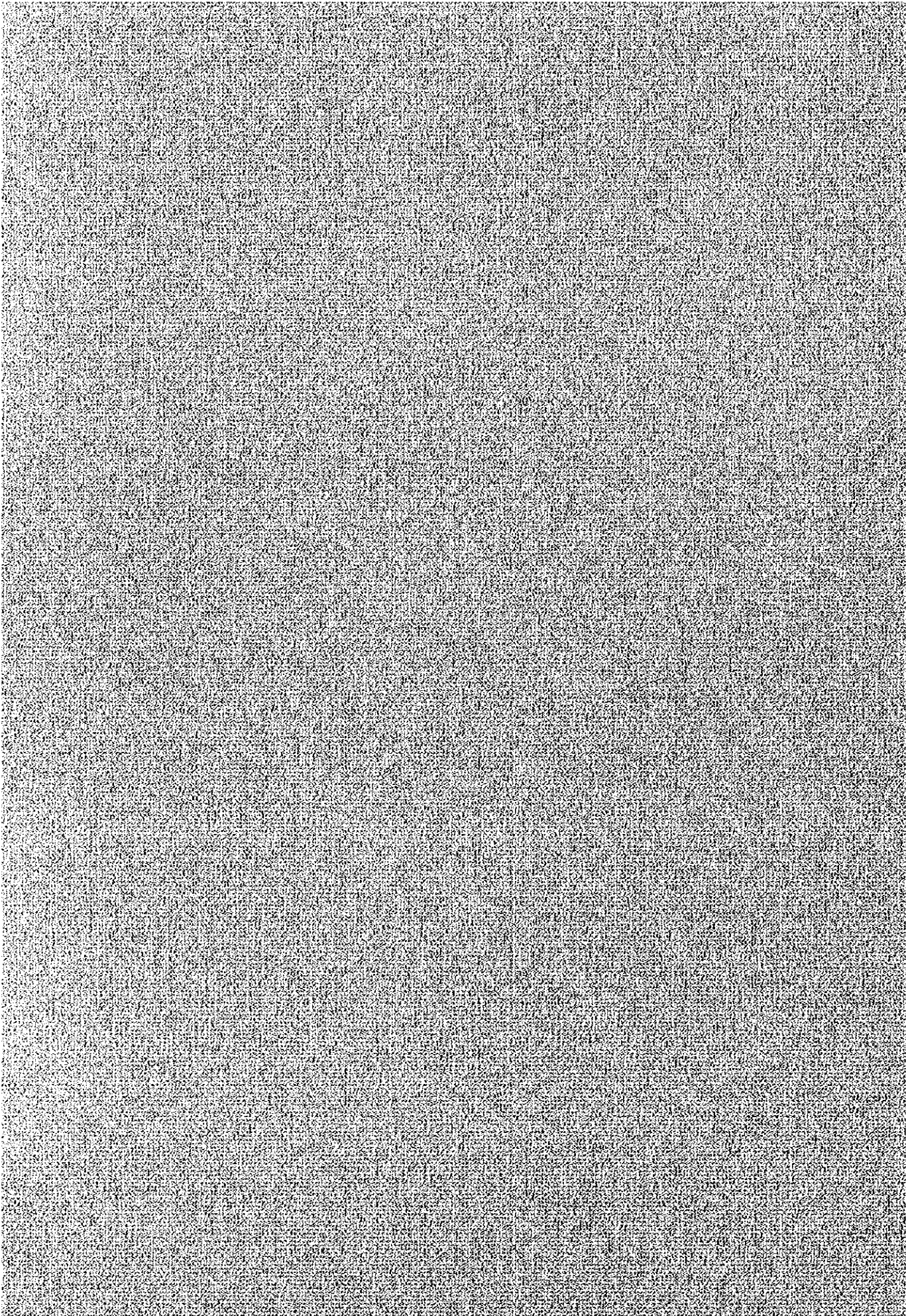


新農村開発計画



目 次

	頁
評価調査の要約と提言	223
1. 序 言	223
1.1. 新農村計画 (NVDP) に対する共同評価調査	223
1.1.1. 主要目的と調査チーム	223
1.1.2. 合同評価調査の実施と調査方法	223
1.1.3. 参考資料と報告書	225
2. プログラムの背景	225
2.1. 第4次および第5次国家経済社会開発5ヶ年計画	225
2.2. 円借款の手順と条件	226
2.3. 新農村開発計画の目的	226
2.3.1. NVDP第Ⅰ期の主目的と活動	226
2.3.2. NVDP第Ⅱ期の主目的と活動	227
2.4. 実行組織	227
2.4.1. 全国レベル組織	227
2.4.2. 地方レベル組織	227
2.4.3. 管理組織の機能	228
2.5. プログラムの概要	231
2.5.1. プロジェクト規準と活動	231
2.5.2. プロジェクト・プランと目標県	232
3. プログラムの実施	233
3.1. プログラムの予算と支出	233
3.1.1. 予算割当て	233
3.1.2. タイ国政府予算と支出	233
3.1.3. 円借款の支出	234
3.2. 資機材の調達	235
3.2.1. 調達目標期間	235

3.2.2.	資機材の分配	235
3.3.	NVDP-Ⅱプログラムの進行	235
3.3.1.	実施対象村落	236
3.3.2.	作業計画の目標	236
3.4.	NVDP-Ⅱの実施状況	238
3.4.1.	CDDとARDの実施プログラム	238
3.4.2.	目標と実績の比較	238
4.	NVDP-Ⅱ各プロジェクトの実施成果	240
4.1.	各プロジェクト実施の再検討	240
4.1.1.	主管庁の管理官による論評と意見	240
4.2.	東北地方の現場調査	244
4.2.1.	現地調査のプロジェクト活動	244
4.2.2.	調査指標	244
4.3.	現状と問題点	248
4.3.1.	ビニールシート張り池プロジェクト	248
4.3.2.	* <u>ライス・バンク</u> と貯蓄グループ	250
4.3.3.	家内工業の促進	252
4.4.	社会経済的影響	253
4.4.1.	NVDPの効果	253
4.4.2.	社会経済的影響の認識	254
4.5.	各プログラム実施の影響	254
4.5.1.	ビニールシート張り池	254
4.5.2.	ライス・バンクと貯蓄グループ	255
4.5.3.	家内工業	256
4.6.	プロジェクト実施後の生活水準	255
4.7.	将来の開発計画に対する要求と勧告	256
4.7.1.	要求と将来の計画	256
4.7.2.	将来の開発計画への勧告	257

* Rice Bank : ライス・バンク (粳米を貯蔵貸付する協同運営の貯蔵庫)

表 の 目 次

表	頁
1-1 各組織によるプロジェクトの目標と実際の主要活動	17

図 一 覧 表

図	頁
1-1 タイ国経済・技術協力共同評価調査のフローチャート	2
2-1 NVDP-第Ⅰ期計画組織図	7
2-2 NVDP-第Ⅱ期計画組織図	8

別 表 一 覧 表

表	頁
1-1 評価調査チームの団員	
1-2-1 中央政府の面談者	
1-2-2 地方政府の面談者	
1-3-1 活動別訪問農村数	
1-3-2 農村の面談者の代表	
1-4 NVDP参考文献と報告書	
2-1 NVDP-Iのためのプロジェクト・プランの概要	
2-2 NVDP-IIのためのプロジェクト・プランの概要	
3-1 NVDP (II) の年間支出額	
3-2-1 NVDPで調達した資機材一覧表	
3-3-1 NVDP-I, II用資機材の調達の年間割当て	
3-3-2 NVDP-I, IIの調達した資機材の配分 (CDD, MDU, ARD)	
3-4 ARD地方事務所における円借款による購入設備での建設プロジェクト	
4-1-1 関連郡の人口 (1982~1987)	
4-1-2 関連郡の主要農産物 (1986~1987)	
4-1-3 調査村の人口、営農規模と主要産物 (1986~1987)	

- 4-2-1 全国農村開発作業様式（NRC-2C）の指標
- 4-2-2 貧困指標
- 4-3-1 ビニールシート張り池プロジェクト
- 4-3-2 ライス・バンクと貯蓄グループ・プロジェクト
- 4-3-3 家内工業プロジェクト
- 4-4 東北地方関係県の農産物統計
- 4-5 東北地方のGDPとGRP

別 図 一 覧 表

図

- 1-1 NVDP-Iの活動
- 1-2 NVDP-IIの活動
- 2-1 関係県の位置
- 2-2 関係県の名称
- 3. 全国農村開発委員会（NRDC）の農村開発計画と立案組織
- 4. 東北地方における調査農村の位置図

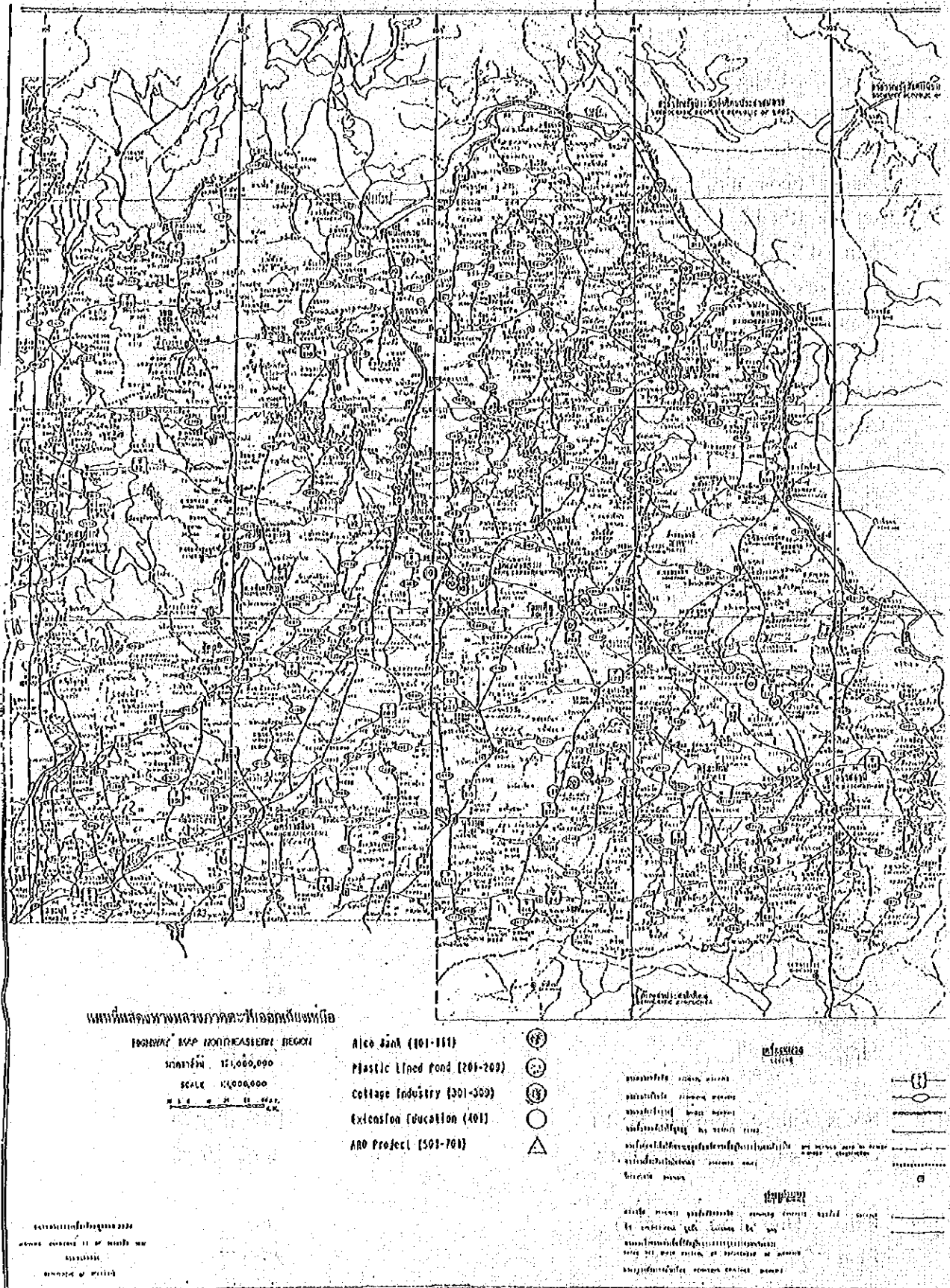
— 英語 (略語) の訳語 (NVDP用) —

英 (タイ) 語 (略語)

訳語

Royal Thai Government (RTG)	タイ王国
New Village Development Program (NVDP-I,II)	新農村計画
Phase - I,II	第一期、第二期計画
National Economics & Social Development Board (NESDB)	国家経済社会開発委員会
National Rural Development Committee (NRDC)	国家農村開発委員会
National Security Council (NSC)	国家保安評議会
Accelerated Rural Development Department (ARD)	農村開発推進局
Community Development Department (CDD)	地域社会開発局
Mobile Development Unit (MDU)	移動開発機構
Community Development Worker (CD Worker)	CD指導員
Chulalongkorn University Social Research Institute (CUSRI)	チュラロンコン大学 社会調査研究所
Rice Bank (RB)	ライス・バンク (初米を貯蔵貸し出しする 協同運営の貯蔵庫)
Saving Group (SG)	貯蓄グループ
Plastic Lined Pond (PLP)	ビニール・シート張り池 (ビニール張り池)
Cottage Industry (CI)	家内工業
Extention Education (EE)	実務教育
Paddy	籾 (米)
Pond	溜池 (池)
Reservoir	貯水池
Overflow Dam	越流ダム
Region	地域
Changwat (Province)	県
Amphoe	郡
Tambon	タムボン
Muang (Ban)	ムアン (村)
Gross Domestic Product (GDP)	国内総生産
Gross Regional Product (GRP)	地域総生産
Rai (Unit of area 0.16ha)	ライ
Bhat (฿)	バーツ

圖4 調查プロジェクトの配設圖



評価調査と勧告の概要

1. 共同評価調査

タイにおける新農村開発計画（NVDP）のための日本の経済協力に関する共同評価調査が、チュラロンコン大学社会調査研究所（CUSR I）と日本国際協力事業団（JICA）の両者の共同評価調査チーム（調査チーム）によって実施された。

この調査チームはNVDPに関する中央および地方政府事務所の担当官とのインタビューを行い、1988年6月／7月の1ヶ月間に東北地方で実際のプロジェクト現地の現場調査を実施し、ウドン・タニ サコン・ナコン ナコン・パノム マハ・サラカム ロイ・エト コーン・ケエン ウボン・ラチャタニおよびスウリンの8県にある30ヶ所の33以上のプロジェクトを訪ねた。

2. NVDP第Ⅰ期計画と第Ⅱ期計画

NVDP第Ⅰ期はタイの北部、東北部および南部の3地方において、1979年から1984年までの間、日本政府から資金の提供をうけ第4次国家5ヶ年計画により、農村貧困撲滅計画の一部として、1979年から行われた。このプログラムは地方開発政策と平行すると共に、1982年から1986年までの間、円借款の追加予算援助により第5次5ヶ年計画の第Ⅱ期まで延長された。

第Ⅰ、第Ⅱ期に対して合意の両借款額は夫々70億円で、10年間の支払猶余をふくむ30年返済条件であり、両段階に対する支出総額は約63億円と67億5千1百万円で、借款利息はそれぞれ3.25と3パーセントであった。

実施機関は第Ⅰ期の実施機関は地域社会開発局（CDD）と移動開発機構（MDU）¹⁾である一方、第Ⅱ期はCDDと内務省農村開発推進局（ARD）であった。

¹⁾ Mobile Development Unit（MDU）は治安を目的とし国境地域の貧困地帯の開発する保安機構、本報告書では“移動開発機構”と訳す。

第Ⅰ・第Ⅱ両期の主なプロジェクト活動は夫々次の通りであった。

NVDP第Ⅰ期

- (1) 生産性向上活動
- (2) 自然環境ならびに農村社会公共施設改革活動
- (3) 農民組織と開発活動

NVDP第Ⅱ期

- (1) 水資源開発活動
- (2) 生産信販グループ（貯蓄グループ）とライス・バンク開発活動
- (3) 家内工業促進と水利活動
- (4) 地域実務訓練教育活動

3. 調査の基準と指標

NVDP-IとNVDP-IIのプログラムはタイ国政府（RTG）の国家計画の下に行われた円借款で、“NVDPに対する日本の経済協力”援助によってRTGの計画によるNVDPプロジェクト用の設備資機材の調達が実施された。従って実施計画とプロジェクトの施行は主としてRTG執行機関と地方の農村組織によって行われたのである。

日本政府は日本からのNVDP借款が本プログラムに対して、どのように活用されたかについて関心を持っていた。この見地から、次の評価規準によって共同評価調査が行われた。

規 準

- (1) 農村貧困撲滅プログラム、農村生活条件の改善ならびに農家収入の増加をふくむNVDPの目的に実際に円借款は合致していたか。
- (2) 実行されたプロジェクトの原理と方法は村民に理解されたか、またそれは村民に恩恵を与えたか。
- (3) 円借款により供給された設備と資材とは、水資源活動、公益事業、家内工業などの自然環境の改善ならびに村落社会公共施設整備事業のプログラム達成に有効であったか。
- (4) プロジェクトが実施された後、その施設に対して村民の運営と保全作業が順調に行われ、また良い状況に保たれていたかどうか、もしそうでなければ、その理由は何であったか。
- (5) NVDP実施後、受益者の実際生活水準と収入とは雇傭機会または農業生産性の向上により良くなったか。相互扶助の精神が村民の間で培われたか。

評価現地調査に使われる指標は本報告書の第4章2.2に列記した。

4. NVDP第Ⅱ期プロジェクトに対する評価と勧告

4.1. 一般条件

各地区におけるNVDPプロジェクト達成率は全く異なっており、各プロジェクトを2つの要素、すなわち、プロジェクトの政府方針と実績を考慮して個別に評価すると、成功度は50%から90%の間にまたがるであろう。村民の協力がすべての事業に得られたことが調査結果で判明し、また相互扶助の精神も生まれた。従って政府の地方協力促進作業の方針は支持されたと考えられる。

一般に調査村のNVDPプロジェクトメンバーに参与した者は殆どすべて感謝の意を表明しており自分らのプロジェクトに満足している。場所ごとに結果はまちまちであったが、村民は少なくとも相互扶助の精神や、より改良されて安定した村の生活並びに村の協同精神をひろげ、彼らの地域社会組織の促進と強化の機会を得た。

4.2. 各プロジェクトの状況

1. ビニールシート張り池

- (1) 一般に村民は乾季であっても新しいビニール・シートを張った池から一定の綺麗な水が得られるので、作業時間の節減と家事用水の入手に感謝していた。
- (2) このプロジェクトは、村民が家事用の安定した給水を必要としたので、第1期中、特にビニールシート張りと掘削作業は、村民の協力により円滑に実施された。
- (3) 一方当初計画の池の大きさが殆ど各プロジェクト実施農村での家事用水の需要を満たすに至らず、池の容量は必ずしも村民の需要に応えることが出来なかった。
- (4) 堤防の土浸食とビニール・シートを被覆する上土の落剥が、池を浅くしたり、泥水や直射日光によるビニール・シートの破れなどの問題を起こしたので、池の構造は設計する時点で十分考慮されなければならない。
- (5) 他の水源がその地区にある農村では、村民はビニール張りの池の管理や保全には注意を払わないであろうが、この池が唯一の水源となった農村では、その修復作業が十分できるような組織造りが出来た。
- (6) 塩害は東北地方での問題の1つで、塩害地域内の多くのビニール張り池の水は、外部の塩水の影響で徐々に塩分を含みだした。

(7) ビニール張り池の毎年かかる保全・修理費は村民にとって重荷であり、また村民はその池を恒久的な状態に維持するためにコンクリート・ブロックとセメントを買わなければならない。

(8) 調査した池の殆ど全てが村の適当な位置にあったが、現場の選定は土壌、地下水位および塩害状況等の自然条件を考慮して行われなければならない。

II. ライス・バンクと貯蓄グループ

(1) ライス・バンクプロジェクトは人々からも歓迎されている。ある地区ではその運営によって利益が上がらなかったとは言え、大部分の農民がこのバンクの運営目的に賛同している。しかしながら、このバンクの実際の役割りは説明不十分のため農民に完全には認識されていなかった。特に貯蓄グループ運営の説明と実現についてはもっと徹底しなければならない。

(2) あるライス・バンクでは、当初の在庫量が不十分であったため受渡し後には在庫が残らなかった。そのバンクは粃米が戻って来ないので、ライス・バンクとしての機能を失って倉庫としての働きしかできなかった。

(3) 殆どの農村で、このプロジェクトへの参加者はごく少数の村民に限定され、村民達への指導者についての説明が適切でなかったため、プロジェクトに対する村民の認識が不足している。

(4) ライス・バンクの収容量は夫々の村の人口と耕地面積に見合うように造られておらず、大部分は30,000kgか50,000kgの容量に定められており、各農村の実施ニーズを反映していない。

(5) あるライス・バンクは寺院地区内に建てられてあり、寺が村の中心にあるので、場所的には管理に好都合である。しかし、寺々に米を寄付する習慣があるので、ライス・バンクの貯蔵量がそのような場所では減っているのが観察された。

(6) 仲買人による取引が減ってきているが、ライス・バンクに貯蔵しないで、米が値上がりしたときに仲買人に売る非会員がいた。

(7) ライス・バンクグループの会員になるための村民のもっと進取的な計画が銀行機能の向上に必要であり、そのために訓練と指導を村の運営グループに与えてやるべきである。

Ⅲ. 家内工業

- (1) 良い指導者と適当な訓練と十分な原料を得ることができたところは、村民が副収入を増やすために行う余暇利用の家内工業は成功していた。この家内工業には、むしろ竹細工、編物、仕立て、裁縫、陶器造り、つば造り、かじ屋、その他があった。
- (2) 資材不足や技工術を教える指導者の不足および粗末な生産体制のために、折角できたグループが解散した例もいくつかあった。
- (3) ある実施地域では、家内工業は農民の余暇利用には効果があったが、製品の殆どが地元向けであったり、生産地が遠隔地であるため、他区域の市場への販売が不可能であり、従って販売範囲が自分らの農村または自家用に限定されており、この状況では十分な収入を生み出せなかった。
- (4) しかしながら、電気と交通機関の発展につれて、各農村が家内工業の生産品を多様化するための最新技術を必要としていることが明らかである。

Ⅳ. 実務教育と職業訓練

- (1) 現場の殆ど全てのCDD指導員は、出来るだけ多くの村民と接触してプロジェクト実施を積極的に促進していた。
- (2) 新任の職員は別として、農民・村民・指導者と地方役人の間に目に見えるみぞは無さそうであった。しかしながら、村民をもっと効果的に助けるため地方の担当係官は困難な問題に対処する進んだ知識と技術を習得する多くの訓練が必要であり、また新しい技術が多いので日々の仕事を十分にこなすため村民には、もっと多くの知識を身につけさせる必要がある。

Ⅴ. ARDプロジェクトと重機類

- (1) 殆ど全ての重機類は、CDDによって調達されてから、8地域のARD地方運営本部に手交された。
- (2) これらの重機は池の修復、貯水池、越流ダム、沼地排水の掘削等の建設作業用に使用された。これらの水資源プロジェクトは、どちらかと言えば数ヶ村をカバーする大規模施設であり、農業生産にかゝわる村々に大きな恩恵を与えた。
- (3) これら重機類の約75%が良く整備されており、予備部品が揃っていれば修理でき長い間使用可能である。

5. 将来の計画に対する提言

この種の農村開発活動が将来行われる場合、あらかじめ自然・社会条件を充分分析すべきである。

各プロジェクトの実施と維持の成功への鍵は技術移転、アフター・サービス、村民間の協力精神、このプロジェクトの運営と保全への情熱、指導者達のリーダーシップと適切なアドバイスにかゝっている。

上のことを実行するのに最も重要なことは、保全、管理、運営および人員の訓練に対して予算準備を行わねばならないと言うことである。

破損した多くのビニールシート張り池については修復を検討すべきであり、それにはコンクリートかセメント・ブロックをビニールの上に張るのが適当と考えられる。

農民と政府との対応資金を池再建の運営に導入すべきである。

タイ国における日本の経済・技術協力合同評価調査

新農村計画報告書

1. 序 言

1.1. NVDPに対する合同評価調査

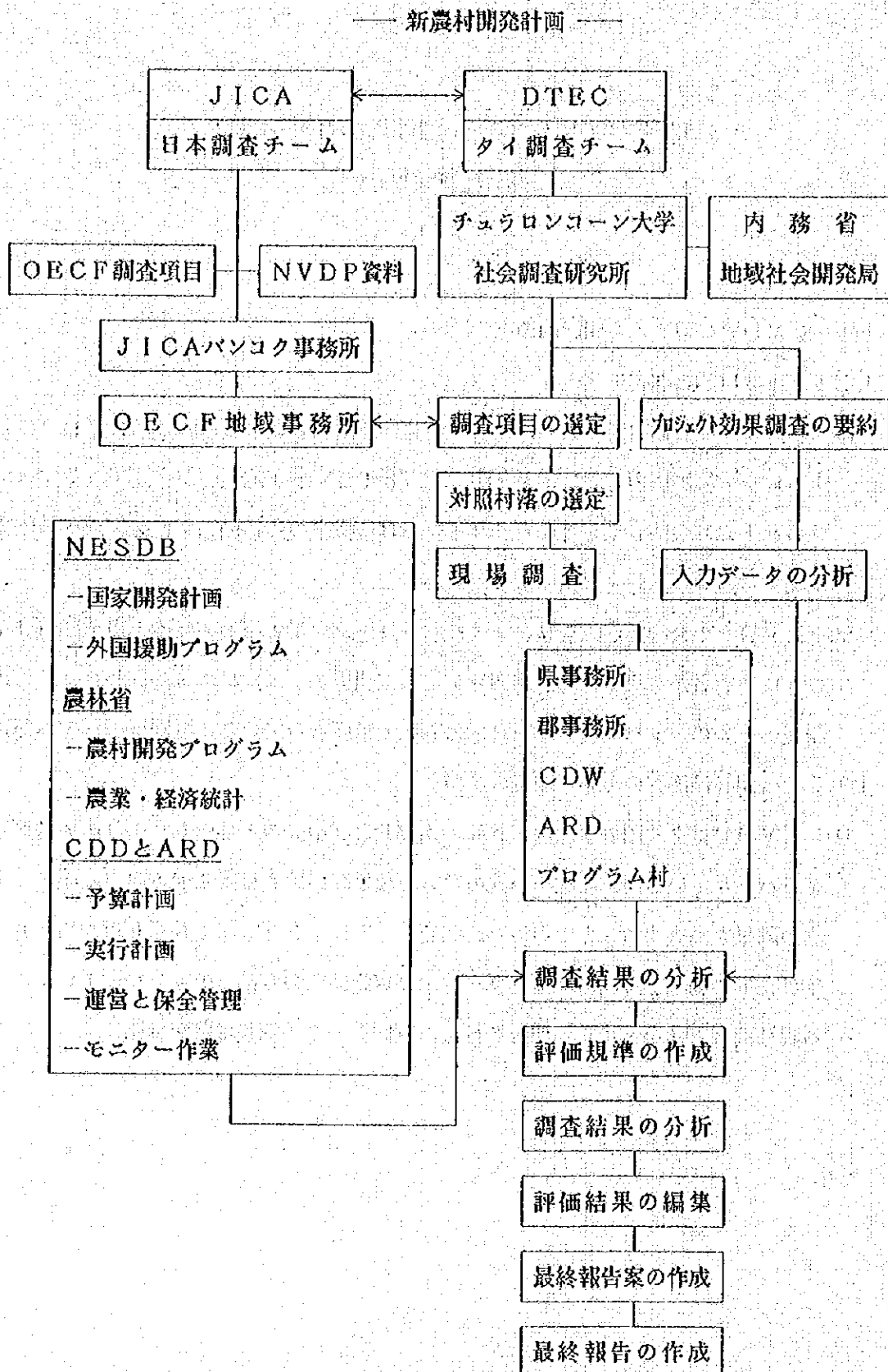
1.1.1. 主要目的と調査チーム

- (1) 新農村開発計画 (NVDP) に対する合同評価調査の主要目的は、NVDP に対する日本の経済協力と共に、タイ国政府 (RTG) の実施機関が、完了したプロジェクトの社会的成果を評価し、タイにおける将来の農村開発プログラムへの協力に関する重要な論評を提出することにある。
- (2) NVDPの合同評価調査は、チュラロンコーン大学と日本国際協力事業団 (JICA) の両者から成る合同評価調査チーム (調査チーム) によって行われた。この調査チームのメンバーはタイと日本の両国で構成されている。(別紙1-1参照)

1.1.2. 合同評価調査の実施と調査の手順

- (1) NVDPはタイ国の東北部・北部・南部および中央の一部にまたがり広大な区域をカバーしているが、調査チームの行った現地評価調査は東北地方のみに限定してその成果を調査することであった。調査チームは1988年6月20日から7月17日までの約1ヶ月間に、バンコクおよび東北地区の8県 (チャンワット) における現地調査とインタビュー調査を行った (図1-1: 調査経路図参照)

図1-1 タイ国における日本の経済・技術協力合同評価調査手順図



(2) 調査チームが情報入手とインタビューを実施したバンコクの政府事務所は次の通りであった。

- i) 総理大臣官房 — 国家経済社会開発委員会 (NESDB) 農村開発調整部
- ii) 内務省 — 地域社会開発局 (CDD) 研究評価部
- iii) 内務省 — 農村開発推進局 (ARD) 企画部
- iv) 農業協同組合省 — 土地開発局・調査地図製作部
- v) 農業協同組合省 — 農業経済局・農業統計部

中央政府機関でのインタビューを受けたものは別紙 1-2-1 に列記してある。

(3) 調査チームが訪問したのは CDD と ARD の両地方事務所およびウドン・タニ、サコーン・ナコーン、ナコーン・ラチャシマ、ロイ・エト、マハ・サラカム、コーン・ケエン、ウボン・ラチャタニおよびスリンの 8 県の CD 事務所であった。

地域および県事務所の NVDP 担当官名は別紙 1-2-2 を参照。

(4) 現地調査は CDD と ARD の地方機関とのインタビュー後に、CDD 担当官によって選択された対象村で、そのプロジェクトに携わる村民との面談で行われた。調査チームの要請と予定に合わせて、CDD と ARD の各地域及び県事務所は 30 以上の対象村を選定したが、実際に訪問した村落の数は 30 ケ村であった。(調査対象村、プロジェクトの種類及び面談者名は別表 1-3-1 と 1-3-2 を参照)

1.1.3. 参考資料と報告書

執行機関および他の関係機関が発行した NVDP に関する参考資料と報告書ならびに情報は別紙 1-4 に列記の通りで、現地視察記録と共に調査チームはこれらの資料を参考として、その評価データを作成した。

2. プログラムの背景

2.1. 第 4 次/第 5 次国家経済・社会開発 5 年計画 (1977~1981 年/1982~1986 年)

第 5 次国家経済・社会開発 5 年計画 (第 5 次国家計画) は同第 4 次 5 年計画 (第 4 次国家計画) につづくもので、国の主要地域における農村の貧困を解決するための目標を定めており、第 5 次国家計画は、幾つかの手段を採用した農村開発プログラムによる“後進地域における貧困緩和”を強調した。

新農村開発計画 (NVDP) は、タイ国の北部・東北部・南部の 3 地方における貧

困の撲滅を促進するため、第4次国家計画による農村貧困撲滅計画実施の一環として、1978年夏に日本政府の円借款援助によって設立されたものである。この計画は更に第5次5ヶ年計画の農村開発政策に継承されて、借款の追加予算援助も1982年から1986年までの第Ⅱ期の新農村計画に継続支出された。

2.2. 円借款の手順と条件

プロジェクト	新農村開発計画（Ⅰ）	新農村開発計画（Ⅱ）
交換公文	1979年4月	1981年4月
借款協定	1979年6月	1981年9月
借款の終了	1984年6月	1986年9月
借款金額	70億円	70億円
借款の支出	63億6百万円	67億5千1百万円
借款条件		
支払期間	30年（支払猶予10年を含む）	30年（支払猶予10年を含む）
利 率	3.25%	3%

2.3. 新農村開発計画の目的

NVDPは、政府ベースによる農村基盤整備のプロジェクトよりも、農民自体の地域社会参加と自律精神により多く基づくもので、政府は資金、資材、生産原料およびその他の技術サービスを提供し、また地域社会への参加過程を生産活動に誘導することによって、支持的役割りを果たすであろう。

2.3.1. NVDP第Ⅰ期の主目的と活動

- (1) 各農村における地方生産性、収入および雇傭機会を援助する施設の建設に焦点を当てること。
- (2) 農村社会のための基本的な必要施設を建設または交付し、村民がより良くかつ安全な農村生活を享受し、自らの地域社会を誇りに思えるように、村の自然環境を改善すること。
- (3) 村の協力精神を高揚し、NVDPのもくろむ農村開発活動への村民の自発的参加を求めること。この動きは、勤勉、自助、協力の精神に基づき、その経済・社会活動に従事できるように村民に活力を与えることを目指している。
- (4) 開発目的のために現存の地方および地域社会の組織を強化すること。
- (5) この新開発のはずみを他の進行中の農村開発プログラムおよび新しく樹立される“県の開発計画”と調和させること。

2.3.2. NVDP第Ⅱ期の主目的と活動

第Ⅱ期では、次にあげる主目的が第Ⅰ期にらんで設定され、その主なねらいは下記のように農村の貧しい人々を自力で立ち上がらせることであった。

- (1) 遠隔地の貧困農村での生産性、収入および雇傭機会を増大するため、水資源開発のための基礎的必要な施設を建設または交付すること。
- (2) 遠隔の貧困農村でこれらの施設を活用することにより就業条件の開発を促進すること。
- (3) 農村の人々がその経済・社会の開発活動に自発的に参加し協力できるように、農村社会組織を促進・強化すること。

2.4. 実施組織

NVDPを実施するため政府の支援組織と委員会が全国および農村（県、郡、タムボンと村落）レベルで設立された。

2.4.1. 全国レベル組織

(1) 全国農村開発委員会 (NRDC)

委員長：総理大臣

事務局長：全国経済社会開発委員会事務局 (NESDB) 事務局長

(2) 全国農村開発調整センター (NRDCC)

(3) 国家保安評議会 (NSC)

移動開発機構 (MDU) …… 第Ⅰ期計画

(4) 内務省

地域社会開発局 (CDD) …… 第Ⅰ、第Ⅱ期計画

NVDPプロジェクトディレクター：CDD総局長

農村開発推進局 (ARD) …… 第Ⅱ期計画

2.4.2. 地方（県、郡、タムボンと村落）レベル組織

(1) 県農村開発委員会

委員長：各県知事

事務局長：県CD事務所長

(2) CDD、MDU地域事務所とARD運営本部

(3) 郡農村開発委員会

委員長：郡長

事務局長：郡CD事務所長

(4) タムボン農村開発委員会

委員長：タムボン長

事務局長：タムボンCD指導官

(5) 村落開発委員会

委員長：村長

事務局長：農村開発委員会々員

これら委員会の主たる機能は村民の基本的必要事項と意見に従ってプロジェクトを系統だてることであった。

2.4.3. 執行機関の機能

NVDPの活動は村民の協力と参加のもとに、村落開発委員会とタムボン農村開発委員会によって行われた。県と郡の農村開発委員会はプロジェクト実行のための賃金、消耗品、設備や資材の割当てに携わった。一方、上部組織では、県委員会が細目の引き受けまたは援助の提供を行う政府機関の役割を担当することになる。これらの活動を行うためにCDDとMDUが第Ⅰ期に、CDDとARDが第Ⅱ期に参加したのである。

MDUとARDによって行われた村道、貯水池、せき、橋などの建設では、この雨機関の地域または県の岡地方事務所で直接施工された。

プロジェクトに関係のある中央政府機関をふくむ、NVDPの第Ⅰ、第Ⅱ期の実行の組織図は図2-1と図2-2に示すとおりである。

第I期

図2-1 NVDP-I用組織図

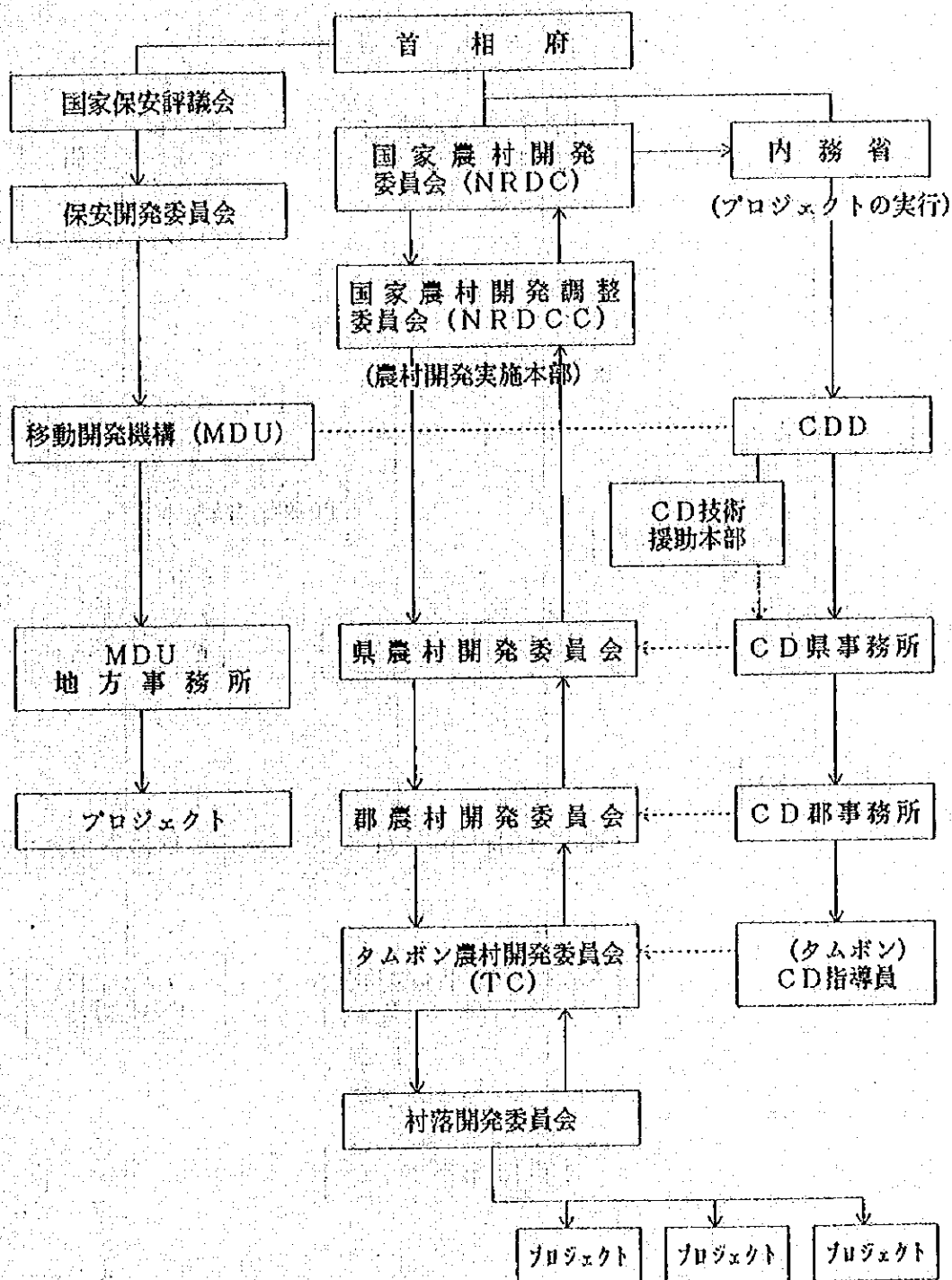
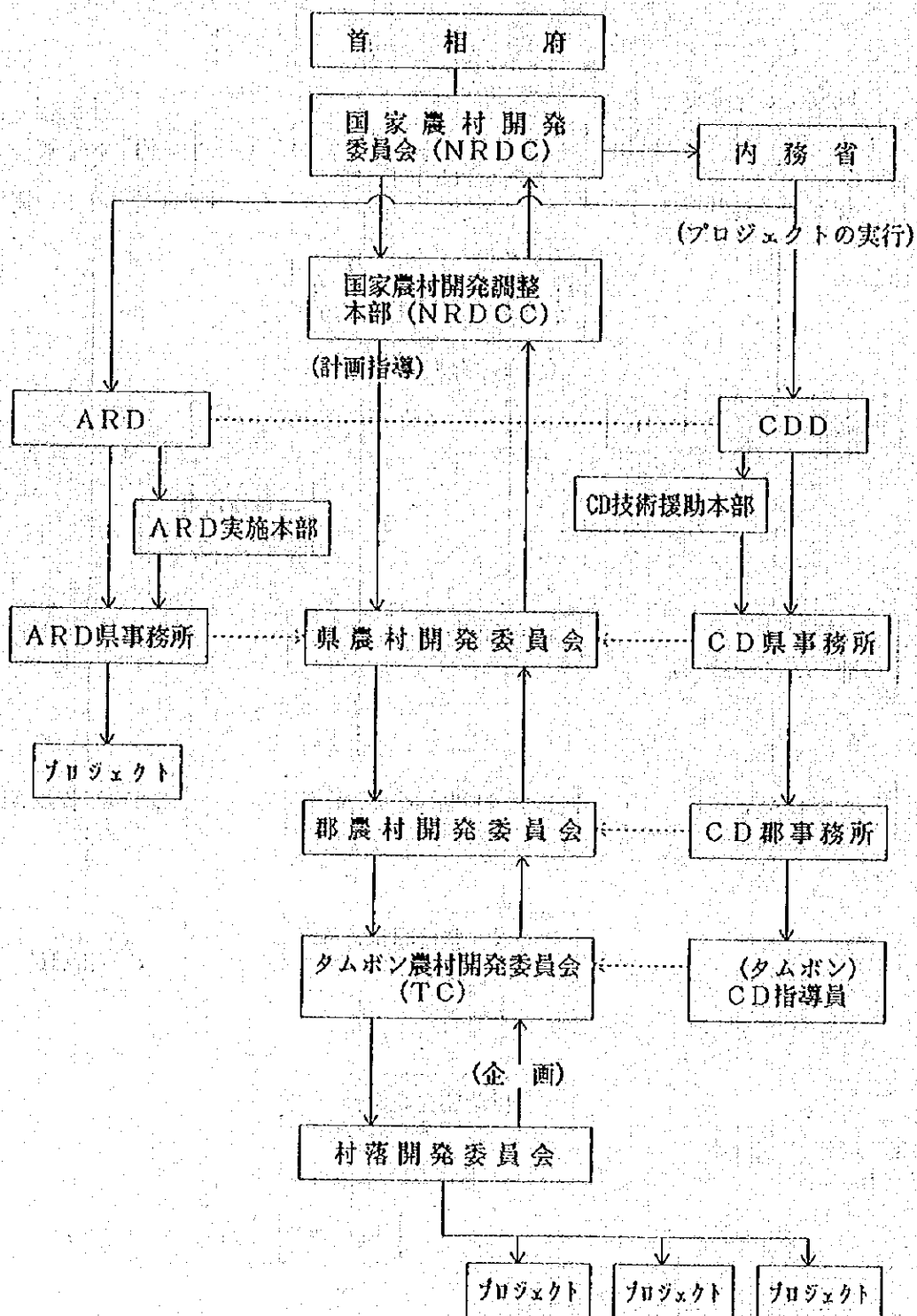


図2-2 NVDP-Ⅱ用組織図



2.5. プログラムの概要

2.5.1. プロジェクト規準と活動

国家計画の指針に従ってNESDBと実施機関が、NVDP-Iのプロジェクト区域をとりあえず東北部、北部および南部に選定し、2つの執行機関CDDとMDUにより実施計画を再検討しプロジェクトを実行した。

プロジェクトの選抜は次の規準で行われた。

- (1) 資源開発と基礎的施設設置の可能性に重点を置いたクムボンや各農村の自然条件
- (2) 信用機関や職業グループの規模や所有権による経済条件
- (3) 新開発事業の展開への基本的必要性と準備に対する社会的条件

NVDP-IIはCDDとARDの執行機関によって実施されNVDP-Iの実績をふまえて企画されたもので、NVDP-Iの計画地域は28県990ヶ村にわたったが、NVDP-IIではさらに38県の1,968ヶ村に拡大された。

開発の実施に当たっての活動は次のように分類される。(別図1-1と1-2参照)。

NVDP-I (執行機関：CDDとMDU)

(1) 生産向上活動

このねらいは、信用貸し、種子、肥料などの直接生産財の投入をふくめ、農村地域の収入と雇傭促進を促す生産性の向上と共に集約的栽培の強化により農業外収入を生み出すことである。

(2) 自然環境と農村社会公共施設整備活動

この目指すところは、地域公共施設、農村開発センター、村道、せきなどの整備を行う自然環境整備と改善である。

(3) 農民組織と開発活動

このねらいは、村落、職業グループ、貯蓄グループなどの協力心や生産的精神を促進する自助活動の強調である。

NVDP-II (執行機関：CDDとARD)

(1) 水資源開発活動

この目的は、現存の水源地を建設、修理および改良することにより、農村地域の収入と雇傭条件を増大する生産性の向上である。

(2) 貯蓄グループとライス・バンクの開発活動

これはライス・バンクの設立と運営を通じて村民に相互協力的かつ生産的精神を

維持するよう組織し訓練することである。

(3) 家内工業の促進と水利事業の活動

これは収入増加と雇用機会を生み出すための副業に余暇を活用できるように人々を促すことがねらいである。

(4) 地域社会の実務教育活動

これは執行機関の組織を強化し、農村開発における公共事業の運営を担当する係官の能力向上を目指した。

2.5.2. プロジェクト・プランと計画県

NVDPがあらゆる問題を考慮しながら農村開発の促進を目指している以上、このプロジェクトは建設作業のみに限定されるのではなく、資金、資材、生産品その他のサービスの供給により、農村社会公共施設の強化を通じて社会・経済活動の促進を含むものでなければならない。

NVDP第Ⅰ、第Ⅱ期のプロジェクト・プランは別図2-1と2-2に示すように東北部、北部、南部の各地域における主活動として要約できる。

NVDP第Ⅰ、第Ⅱ期の計画県は、プログラムの当初予定ではそれぞれ28と38であったが、実行に当たっては数が増えて同図の通り各29と41になった。

3. プログラムの実施

3.1. プログラムの予算と支出

RTG予算と円借款の両方の予算計画は次表の通りである。

NVDP予算計画

予 算	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986
国家5ヶ年計画	← 第4次計画				← 第5次計画					
タイ国政府 予算計画										
第Ⅰ期										
第Ⅱ期										
円借款計画										
第Ⅰ期										
第Ⅱ期										

3.1.1. 予算の配分

NVDP-I・II両プログラム予算は、資機材、労務、国内運送と管理のための4つの費用から成り、資機材の予算は大部分が円借款で、その他一般費用はRTG国家予算でまかなわれた。

3.1.2. RTG予算と執行機関による支出

(1) 第Ⅰ期

100万バーツ

1. RTG予算

392.2

— 雇傭促進

— 公共施設

— 人口動態的開発

— 管理 (臨時雇傭)

2. 税金

157.38

合 計 549.58

(2) 第Ⅱ期

CDD

116.0

ARD

634.73

監査と評価

15.0

合 計 765.73

3.1.3. 円借款の支出

(1) 第Ⅰ期

OECD第6次借款による第Ⅰ期用として70億円に達する日本からの財政援助は1979年6月に始まり、63億6百万円支出後1984年6月に終わったが、その詳細は下の通りである。

項 目	支出額(1,000円)
1. 建設機械と用具 (5千品目)	4,166,025
2. 建設資材 (11品目)	476,873
3. 給水用資材 (11品目)	291,222
4. 給水設備 (11品目)	488,549
5. 機器類 (18品目)	79,883
6. 工業機具 (5品目)	55,112
7. 農機具 (5品目)	273,460
8. 畜産機具 (9品目)	24,134
9. 電化プロジェクト (51プロジェクト)	156,070
10. 燃料と潤滑油 (7品目)	200,050
11. 調達用コンサルタント料 (24ヶ月間)	94,204
合 計	6,305,582

(2) 第Ⅱ期

1982年から1986年までの間の円借款70億の予算計画は次の如くであった。

内 容	予 算(1,000円)
A. 設備と資材 (外 貨)	6,450,000
(1) ARD建設用重機類	4,900,000
(2) CDD地域社会開発用機器	404,000
(3) CDD掘削機	10,000
(基準通貨)	
(1) 軟質PVCシート	1,010,000
(2) 家内工業用機器	126,000
B. 調達用コンサルタント料	200,000
C. 予備費	350,000

第Ⅱ期の調達は、1982年に始まり1986年夏に終わった。総支出額約67億5,100万円は次の通りで、1982年から1986年までの資機材の年間支出は別表3-1に示してある。

項 目	金 額(1,000円)
調達した資機材	6,564,630
調達用コンサルタント料	185,993
合 計	6,750,623

3.2. 資機材の調達

3.2.1. 調達の目標

プロジェクト予算の大部分は資機材の購入で占められており、その調達費用はほとんど円借款でまかなわれ、その総額は約127億7,600万円で1980年4月から1986年夏までに支出された。

第Ⅰ期の実施期間は1979年と1980年に設定されたが、資機材の大部分は1981年から1982年末までに現場に納入され、従って第Ⅰ期は当初予定から2年おくれて、実際に開始されたのは1981年であった。

第Ⅱ期の作業期間は1982年から1986年までの5ケ年に延長され、資機材の現場納入は、1983年初頭に始まり、1984年末までにCDDとARDの両現場に殆どのものが納入された。しかしながら、小型池用ビニール・シートは1986年までの池建設の掘削作業の進行に合わせて徐々に調達される予定であった。第Ⅰ、第Ⅱ期の各品目の調達表と年間支出は別表3-1、3-2-1、3-2-2通りである。

3.2.2. 資機材の分配

プロジェクト現場への資材の分配と配置を決めたのはCDDの本局であったが、これらの中の重機類は、第Ⅰ期ではMDUに、第Ⅱ期ではCDD本局を通じてARD現場に納入された。資機材の年間調達と各計画地域への調達物の分配は別表3-3-1と3-3-2の通りである。

3.3. NVDP-Ⅱプログラムの進行

第5次国家経済社会開発計画（1982～1986年）の地方開発に対する目標区域表示に関する総理大臣府の決定に基づいて、北部、東北部および南部地区における38県、216地域、30下部地域から成る“農村開発促進”と呼ばれる地域で実施される作業計画が策定され、上記の区域はNVDPに関するプロジェクトまたは活動遂行に最も重要な地区と見なされた。

1982年円借款プロジェクト第Ⅱ期により実現される新農村開発計画は内務省の地域社会開発局と農村開発推進局で開始され、5ケ年の実行期間以内の1986年に完了した。

3.3.1. 実施対象の農村

住民の現状と要求に応じて各地域の社会・経済的問題を解決するために、この開発プロジェクトが確実に実施されるように、政府は全国農村開発調整本部（NRDCC / NESDB）を通じて、その村の開発委員会が行ったNRD 2 c 聴取り調査から得た農村レベルのデータを採用した。NRD 2 c 調査様式により各農村の問題点を、土地権の剝奪、一般家事用および農耕用水資源の不足、不便な輸送システムや低い生産性などに分けてまとめた。

3.3.2. 作業計画の目標

第Ⅱ期の作業計画の目標は次の通りである。

- (1) 貧困傾向のある区域にある1,968年の小規模水源を改良または修復するための水資源開発活動。

この活動の目的は、重機を使って浚渫していた池の底にビニール・シートを張ることにより、急な漏れを防止する方法で、それらの貧困地域の水資源を有効に改善し保存することである。郷土意識を造り出すために、自由参加による村民労力の協力が必要であった。水資源開発活動を実施した目標地域は次の通りである。

	1982年	1983年
北 部	233	343
東北部	456	720
南 部	108	108
合 計	797	1,171

- (2) 生産のための貯蓄グループとライス・バンク原理と実習の両面で会員約46,200人の462グループの訓練。

この貯蓄グループの開発のねらいは、農民の間で貯蓄グループを組織し、ライスバンクの政策に従って作業するため会員の米を貯蔵する容量30,000 ~ 50,000 kgの倉庫を建て、ライス・バンクを設立できるように農民を訓練することであり、それら活動の目標グループは次の通りであった。

	1982年 (グ ル ー プ 数)	1983年
北 部	72	65
東北部	147	129
南 部	27	22
合 計	246	216

- (3) 300グループを訓練して副業のための余暇利用を農民にすゝめるための家内工業促進と水利事業活動。

家内工業活動を促進するため、手細工、布織り、裁縫、布染め、つば造り、かご造り、農器具修理などの職業訓練を村民に施したが、その内容は次の通りである。

	<u>1983年</u> (グループ数)
北 部	99
東北部	171
南 部	30
合 計	<u>300</u>

- (4) 6ヶ所の地区事務所のNVDP担当CDD地区係官と、38プロジェクト県の農村社会および自然グループのリーダーを訓練するための実務教育の活動。

この活動は次のように2つの主な学校外教育に分けられている。

- i) NVDP担当のCDD地域係官に対する職務中の訓練。
- ii) 家内工業、機械、修理などの科目に分けて、村落および自発グループのリーダーに対する職業訓練。

これら活動の目標場所は次の通りであった。

	<u>CD係官訓練</u>	<u>村民訓練</u>
北 部	2	16
東北部	2	17
南 部	2	5
合 計	<u>6地域</u>	<u>38県</u>

3.4. NVDP-IIでの主な達成状況

3.4.1. CDDとARDが達成したプログラム

第II期は当初の計画では1982年からの5年間で実行されることになっていたが、プログラム中の殆どの個別プロジェクトは通常2～3ヶ月以内の短期間で建設または実施され、また殆どすべてのプログラムが1986年末までに完了した。しかし、第II期での資機材を使った追加建設工事のいくつかは1987年に行われた。作業期間に加えてプロジェクト地域もまた目標数字を越えて増加し、各地区の実績を示す次表1のように、追加プログラムがCDDとARDにより中部地方の数県で設定された。

(ARDで年間に行った建設プロジェクトについては別表3-4参照)

3.4.2. プロジェクト活動の目標と実績の比較

1982年～1986年の実施期間でのCDDとARDによるプロジェクトの目標計画と比較すると、両執行期間の実績は1986年末までに次表1の示すように大きく違っている。

この両者の水資源開発活動の実績数は目標より約45パーセント下回る一方、リース・バンクは約3倍、家内工業では予想目標を約8倍上回ったのである。

表1. 各組織別プロジェクトの目標と主活動

(1986年末まで)

主 活 動	実 施 場 所				
	場 所 数				合 計
	北 部	東北部	南 部	中央部	
(第Ⅱ期)					(目標)
<u>ARD</u>					(368)
1) 村溜池 (数)	33	139	20	12	204
2) 貯水池/越流ダム (数)	5	37	2	1	(164) 45
3) 水源修復 (数) (沼掘削)	9	15	*		(60) 24以上
合 計	47	191	22以上	13	(592) 273以上
<u>CDD</u>					
1) ビニール張り池 (数)	(576) 242	(1,176) 580	(216) 40	(0) 3	(1,968) 865
2) 貯蓄グループ/ライス・バンク(グループ)	(137) 383	(276) 833	(49) 140	—	(462) 1,356
3) 家内工業 (グループ)	(99) 1,473	(171) 672	(30) 282	—	(300) 2,427
4) 地域社会実務教育					
— CDD指導官の訓練 (地区)	(2) 2	(2) 2	(2) 2	—	(6) 6
— 村民リーダーの訓練 (県)	(16) 16	(17) 17	(5) 5	—	(38) 38

(注) —これらのデータは地域本部から提出された月報から集めたものである。

— * 正確な数は不明

— () は目標活動数

4. NVDP-Ⅱ各プロジェクトの実行成果

4.1. 各プロジェクト実行の再検討

評価調査期間の時間的な制約があったため、調査チームは東北地区のみで第Ⅱ期活動の評価調査を実施した。関係した郡と村落における人口、農耕規模および主な農産物は別表4-1-1、4-1-2、4-1-3に示してある。

4.1.1. 中央および地域執行機関の担当官によるプロジェクトに関する論評と意見

NVDPの個別プロジェクト項目と情報は、バンコクと地域のCDDとARD両事務所の記録に入力された。しかし、調査チームは現地調査と担当係官とのインタビューを通じて、各プロジェクト現場で実際の状況に関する最新情報を入手した。中央および地域執行機関の係官によるNVDP-Ⅱへの意見と論評は次の通りである。

(1) CDD/地域社会開発局-バンコク

9つのCDD地域事務所が全国にわたって次の地区に設置された。すなわち、ウドン・タニ、ウボン・ラチャタニ、ピッサヌロク、ラムバン、ヤラ、ナコン・シー・タマラット、チョンブリ、ラチャブリ、ベチャブリである。CDD地域事務所の主な活動はプロジェクト実施のための訓練と調査であり、NVDP-Ⅰから同事務所に保存してあった重機類を使って建設工事を行った。

NVDP-Ⅱの評価には2つあり、1つはタマサット大学(1984年)が、他はCDD自体(1986年)が行ったもので、NVDP-Ⅰの評価はNIDAが行っていた。1984年のタマサット大学による評価はNRD1A(プロジェクト効果調査)形式を採用して実績の成功、失敗を査定した。これらの測定にはCDD組とARD組の2組の質問が必要であった。CDDの4項目は、プロジェクトの実態、利益、参加度および生活水準で、ARDのそれは、同実態、参加度、利益または効果および地方係官の意見であった。

(2) ARD/農村開発推進局-バンコク

NVDPについてはARDは必要な設備の仕様を設計する段階でプロジェクトに関与するが、この仕様書は入札を行ったCDDに渡されており、その後でARDに移譲される。

実施現場の選択方法は下部から上層部への意見具申のNRD方式に従って行われた。

ARD地域事務所が行った主な活動は池、貯水池、越流ダムとせき、村道、橋な

どの建設である。

道路工事用機材が大変少ないため、NVDP-IIプロジェクトで受領した機材が水資源の開発のみならず、次のように東北地方の道路建設と保全にもしばしば使用された。

道路の建設 : 42ヶ所

道路の保全 : 25ヶ所

整地と開拓 : 8ライ

完 成 年 : 1986年

実行本部 : ナコーン・ラチャシマ

ARD現地作業本部

(3) NESDB/農村開発調整部

NVDP-Iを手がけたのが都市周辺開発調整部であった一方、NVDP-IIはNESDBの農村開発調整本部が実施するようになった。プログラム開発実施のため政府は村落レベルで集められたデータを採用し、“NRD2c”と一般に呼ばれるデータの収集形式が2年ごとに更新された。開発計画の進行を比較するためにNRD2cデータが分析される。このNRD2cに使われている34の指標は別表4-2-1に示してある。

農村開発プログラムの遂行手順と国家農村開発委員会(NRDC)の計画系統化過程は別表図3に図解する通りである。

NESDBの意見:

過去の経験に基づいて、ビニール張り池プロジェクトは一つの良い経験を政府に与えたと言える。もしこの種の池の建設が次の農村開発計画でも取り上げられるならば、この種のプロジェクトは前以て慎重に検討されるべきであろう。しかも、農村開発プロジェクト実行のための戦略は“それに見合った資金”がなければならない。

これは政府と村民の双方が協議して開発プロジェクトの実現に必要な資金計上に同意すべきであることを意味する。そうすればプロジェクトが完成した後に村民は自力でこれを処理し管理するであろう。

(4) ARD／コーン・ケンの農村開発推進地域事務所

コーン・ケンARD地域事務所の管轄区域は、ヤソトン、ムクダハン、ウボン・ラチャタニ、サコン・サコン、ナコン・パノム、ウドン・タニ、ローイ、ノン・カイ、コーン・ケエン、マハ・サラカム、カラシンおよびロイ・エトである。

円借款で調達した機械は水資源開発専用であり、従ってNVD P-II活動は池、貯水池および越流ダムの建設とせきの修復用であり、すべての機械は用済み後、工事の保全のため地域事務所に保管された。また村民委員会が完了後の開発プロジェクトの管理を引きつぐことになっている。

コーン・ケエンのARD地域事務所に所属する重機類の75%以上が良い状態で保管され、部品を適宜補給すれば、破損した機器も少なくともあと15年間は修理と保全が可能である。事務所から要請のあった予備部品としては次のようなものがあった。

ARD地域事務所の要請予備品

- 1) エンジン部品
- 2) トルク・コンバータ部品 (流体変速装置)
- 3) トランスミッション・コンバータ (変速機)
- 4) 差動・減速駆動装置部品

通常ARD技術職員とオペレータ職員には年2回の訓練課程があり、機器やエンジンの取扱いと保全に重点が置かれている。

(5) CDD／ウドン・タニ地域事務所

(A): ビニール張り池プロジェクトに関するCD担当官の見解は次の通りである。

- 1) 被覆土はビニールを維持するのに十分でなく、土が無くなるとビニール・シートが乾燥してバリバリになる。
- 2) 村民は水を飲める位に澄ませたいので、ビニール・シートの上に土を被せたがらない。
- 3) ビニール張り池の日常手入れが村民にとって大きな負担になる。
- 4) 村民はビニール・シートとコンクリートを比較し、コンクリート張り池の方が高くつくが、長い目で見れば値打ちがあると考えている。
- 5) 東北地区のビニール張り池は長期的には塩害の問題があると思われる。この池の水は徐々に塩分を含むようである。

(B):ライス・バンクプロジェクトについては、CDDの政策をはっきりさせるため、ライス・バンクの名称を生産用貯蓄グループと呼ぶことにする。これには次の4つの活動がある。

1. 貯蓄グループ
2. デモンストレーション・センター (協同販売店)
3. ライス・バンク (粳米貸付用貯蔵庫)
4. 倉庫

NVDP資金は1と2の活動のための農民訓練用に費やされた一方、15万パーツは倉庫の建設と回転資金としての粳米の買い付けに使われた。

ライス・バンクへの農民の態度は米の貯蔵が困難な地域では大部分が満足しており、農民の問題を幾分か解決できている。このライス・バンクが出来るまでの状況では、農民は仲買人または外部の商人に自分らの“青田”を売らなければならなかったのである。米の戻し料が非常に高く、もし農民が仲買人から粳米を借りると、100%返済利率になってしまう。

ライス・バンクプロジェクトの間接的恩恵は、貧しい人達の間で利用されるライス・バンクへ裕福な人が自分らの余剰米を供出することにより、村民の間に相互扶助の精神が起きたことである。

(C):NVDPの家内工業プロジェクトはつねに、造った製品を売る市場がないと言う問題に直面した。保存食料は成功せず、燻製魚は村から外で売れるように改良されたが、地方の市場では需要がない。従って家内工業プロジェクト向けの市場は地区内の市場に限定された。

その他の家内工業もかごや帽子造り、裁縫などで同じ問題があり、これらの活動はすべて農民にとって大した副収入の働きにはならなかった。

4.2. 東北地区での現地調査

4.2.1. 現地調査のプロジェクト活動

調査チームは東北地方における8県の33活動で現地調査を行った。その活動は次の通りである。

貯蓄グループとライス・バンク (CDD)	11件
ビニール張り池 (CDD)	9件
家内工業活動 (CDD)	8件
実務教育活動 (CDD)	1件
水資源開発施設建設 (ARD)	4件

村名と活動とは別表1-3-1、その位置については別図4を参照されたい。

これら活動の中、貯蓄グループとライス・バンク、ビニール張り池、家内工業の促進と実務教育プログラムの4活動は地域社会開発局の管轄である。局の方針として、これらの活動は村民と一緒に働かせ、最終段階で相互扶助の組織造りが目的である。生産信用貸し、ライス・バンク、水もれ防止用にビニール張り小規模水源の開発、農機具の保全や、かご造り、織布、染色やつば造りなどの訓練による家内工業促進がこれらの活動の中にふくまれている。

ARDが水資源開発プログラムを管轄しており、調査チームが訪ねたのは池の建設2ヶ所、貯水池1ヶ所、せき（または越流ダム）1ヶ所の合計4ヶ所であった。

4.2.2. 調査指標

訪ねた農民30人に対して“NRD 2 c”の34の指標を適用して、調査した結果（表4-2-2）、訪問現場の殆どが作物生産（ $\bar{X}=9.3$ ）と水資源（ $\bar{X}=12.5$ ）の問題をかゝっていた。

調査チームが適用した本国の評価調査の指標は次の通りである；

(1) ビニール張り池 (PLP)

(1.1) プロジェクト状況

(a) 完成年

(b) 池の状況

—ビニール張り

—ビニール上の覆土

—コンクリートまたはセメント・ブロックの上張り

(c) 池の漏水

- (d) 池の堤防の損壊
- (e) 一年間の水の利用
- (f) 村間の保全協力
- (g) 政府役人からのアドバイス

(1.2) プロジェクト後の恩恵

- (a) 恩恵を受けた村の総世帯数
- (b) 受益世帯率 (%)
- (c) 恩恵の種類
 - 飲料水
 - 家事用
 - 農業／家畜用
- (d) 生活水準の改善
 - 保健／きれいな水
 - 一年中水があること
 - 農業／漁業による収入

(2) ライス・バンクと貯蓄グループ

(2.1) ライス・バンクプロジェクト (RB)

- (a) RBの設立年
- (b) RB会員
- (c) RBのサービス
 - 初を貧しい会員に寄付
 - 初を無利息で貸す
 - 初を利息付きで貸す
- (d) 適量の初を会員に供給
- (e) 会員はRBの規則に従う
- (f) 当初どんな方法で初を貯蓄したか
 - 会員／裕福な農民が余剰米を供出
 - NVDPプロジェクトからの供給
 - 国王の誕生日に毎年農民が寄付
- (g) 当初の初量／調査中の初量
- (h) 消費用初の購入停止
- (i) “青田”の販売を中止
- (j) 外部商人の影響を除去
- (k) 負債の解除

(2.2) 貯蓄グループ (SG)

- (a) SGの会員
- (b) SGの活動
 - 会員への貸付け
 - 小規模店の運営
 - 会員への肥料販売
- (c) 会員のSG規則順法度
- (d) グループの貯蓄額

(3) 家内工業の促進 (CI) (表4-3-3)

- (a) 家内工業の種類
- (b) 会員数
- (c) 活動で収入のある会員
- (d) 市場性のある製品
- (e) 機械修理の訓練者
- (f) 収入増加
- (g) 作業グループの育成
- (h) 生活水準の向上

次の表はチャンワット別に分類した実行プロジェクト数を示すものである。

県	*PLP	*RB	*CI
1. チャイヤフン	26	23	59
2. ナコン・ラチャシマ	26	52	53
3. プリ・ラム	24	27	78
4. ヤソトン	3	39	61
5. シ・サ・ゲト	10	59	104
6. スリン	26	64	120
7. ウボン・ラチャタニ	45	100	85
8. カラシン	80	59	129
9. コーン・ケエン	74	84	186
10. ナコン・パノム	27	36	83
11. マハ・サラカム	29	39	104
12. ムクダハン	17	26	47
13. ロイ・エト	23	74	65
14. サコン・ナコン	43	54	93
15. ノン・カイ	11	22	36
16. ウドン・タニ	33	54	112
17. ロエイ	23	24	60
合 計	520	836	1,475

(注) PLP=ビニール張り池
 RB =ライス・バンク
 CI =家内工業

家内工業1,475件の中ではつば造りが最も多かった。次の数字は家内工業種類の詳細である。

<u>種 類</u>	<u>プロジェクト数</u>
1. つば造りと陶器類	300
2. 織 布	283
3. 建設用木材、セメント、れんが	201
4. かご造り	169
5. 裁 縫	135
6. ござ造り	91
7. 電気器具の修理	85
8. 染 色	59
9. 織 物	44
10. かじや	43
11. その他・保存食品、ほうき造り	65
<u>合 計</u>	<u>1,475</u>

4.3. 現状と問題点

4.3.1. ビニール張り池

- (1) 調査チームが訪れたのは9つの溜池で、その中2つがビニール張り、3つがビニールの上に土を覆ったもの、他の4つがビニールの上にコンクリートまたはセメント・ブロックを敷いたものであった。(別表4-3-1参照)

上記の内、ロイ・エトのバン・パ・パオ(204)にある池を除いて全ての池が現在使用中である。(204)の池は、1986年にできたビニール張りで、1年後に継目が殆ど壊れた。村民がビニールの上に土を被せようとしたが失敗した。

これは土手の傾斜が急すぎるからで、土をのせても池の底に滑り落ちてしまった。

チャンワット・ウドン・タニのバン・ニコム(201)にある別のビニール張り池は、村民が自家用のきれいな水を保存しようとしたため土を被せなかった。

スリン県のバン・ブ・アーライ(209)の土壌は、サコン・ナコン県のバン・ナ・モン(202)やウボン・ラチャタニ県のバン・ノン・マートー(208)のラテライト土壌と同じように、粘土で水が濁る原因になっている。バン・ゴ・アーライ(209)の土手はしっかり固めてあるので浸食が起きず、水は澄んでいたし、大型タンクのポンプをこの池に設置して配水を行っていた。

別の4つのコンクリート池は異常がなく、水は非常に澄んでいて十分飲める状態である。この中の2つの池は他の予算によるビニール張り池を改造したもので、別の2つは、NVDPおよび他の政府予算により昨年(1987年)に造られたものである。

- (2) ビニール張り池の問題は調査チームが訪れた各県のCD担当官から指摘されたが、これらの問題は次のとおりである。

・社会的問題

- 1) 農民が魚や蛙さがしに釣り棒を使うので、ビニール・シートが裂けた。(ウボン・ラチャタニ)
- 2) 農民は澄んだ水が欲しいのでビニールに土をかぶせたがらない。然し、土をかぶせていない池の殆どで、ビニール・シートは日照のために壊れてしまった。農民の話では、ビニール・シートは2~3年で破れるそうである。(数県)

・技術的問題

- 1) 東北部の土質は砂質とラテライトであるため、ビニールの上に被せても長持ち

せず、崩れて池の底に沈んでしまう。(数県)

2) 一般に東北地区では塩害が問題で、ビニール張り池はその影響を受けて、池の水は徐々に塩分を含むようになる。(数県)

3) ナコン・パノム県はメコン川にそっており、地下水の高さがメコン川の水位に影響されるので、池にビニールを張ると方々で湧水の上に浮いた状況となる。

(ナコン・パノム)

4) マハ・サラカムでの別の問題は、池にビニールを張ると、地中からガスが噴出して、ビニールが風船のようにふくらんで破れてしまった。(マハ・サラカムとコーン・ケエン)

5) ビニール・シートの継目が壊れたときに農民はその補修方法を知らないので、針金で縛ったり、また、セメントで破れ目を詰めている区域もいくつかある。

(スリン)

6) 機械作業班が池の掘削を実施したときの設計上の誤りのため。池の土手の傾斜が急すぎたため、ビニールの上に土を被せるのが難しかった。(ロイ・エト)

(3) ビニール張り池には村民の大きな関心がよせられ、その期待に応えるように設計された新しい技術が、農民にこの建設への参加をうながした主な理由である。殆どの掘削作業はCD地域事務所の管轄で行われ、農民は堤の清掃とビニール・シート張りの作業に従事しており、毎日このビニール張りに100人以上が従事した。池のビニール上に土を被せる作業には村民自由参加の労働が別に8~10日間が必要で、浸食防止に草を植えた。またあるところでは家畜の侵入を防ぐ柵も造られた。水利利用者の規定が会員の間で定められており、池を寺の構内に造る場合は農民の働きや参加が他に比べて良くなることが調査の結果わかった。

(4) ビニール張り池の保全と修理は毎年行う必要があり、水の上に露出しているビニールは日照により破れやすい。これが裂けると村民は自己資金により、コンクリートとセメントで孔をふさがないといけない。このような事態があちこちで発生した。調査したところ、農民が別の水源を持っていれば保全活動にあまり関心を寄せなく、従って数県のCD担当官の報告によれば修理せずに放置のビニール張り池が沢山あった。

(5) 開発計画の当初、村々のこのビニール張り池が導入された時点では、殆ど一年中水が得られたので、恩恵を受けた農民達はこの実施プロジェクトに満足していたが、

1～2年たつとビニールの破損のために保全作業が大変になり、その修理に多くの労力と金がかかることとなった。ビニール張り池の造成の経験から、他の予定村落がこれの建設要請を躊躇している。しかしながら、多くの村の農民は政府に対して、如何なる種類の水資源でも得たいと要求しているので、このビニール張り池も望んでおり、他機関の水資源開発プロジェクトに比べてこのビニール張り池が一番易くつくので、殆ど承認されている。

4.3.2. ライス・バンクと生産のための貯蓄グループ

CDD政策についてライス・バンクは生産信用のための貯蓄グループの活動の一つで、この活動は貸付け供与、販売展示グループの設定、初倉庫の建設およびライス・バンクの運営などから成っている。NVDP-IIは容量が3万～4万kgの倉庫建設のための資金援助と、各計画村で最初の回転在庫用として当初必要量の粃米を提供している。

生産用貯蓄グループとライス・バンクは生産信用グループを組織し、人々を奨励して農村内で貯蓄グループを造らせることを目指したものである。しかし、必ずしも全てのライス・バンクが貯蓄グループも設立していないことが調査でわかった。我々が訪ねた11の村落のライス・バンク中で貯蓄グループを運営していたのは僅か6であった。(別表4-3-2参照)

通常1つのライス・バンクはその農村内の会員だけを対象としており、調査によれば、サコン・ナコンのバン・ノン・クン(102)のライス・バンクは3ヶ村の仕事をしている。(会員数571人)

各ライス・バンクの業務内容は次の3つである。

- 1) 粃を貧しい会員に供出する。
- 2) 粃を無利子で貸付ける。
- 3) 粃を利子付きで貸付ける。

上の(1)また(2)の恩恵を誰が受けるかを決定するのは、ライス・バンク委員会で、バンクの粃保有量を増やすため、借主は受けた量に10～30%を追加して返さなければならない。

ライス・バンクの問題は雨が欲しい稲成育期に降るかどうかであり、米生産は農民の自家消費だけでなく、バンクへの返済米が必要である。この効果は我々が訪問したサコン・ナコンのバン・ノン・クン(102)、ナコン・パノムのバン・タ・ボ

(104)、コーン・カエンのバン・ファイ・ヤン(108)の3地域で起きていた。

バンクが十分な米の貯蔵が出来ない別の理由は、ライス・バンクの規則や規定に従わない会員の存在である。コーン・ケエンのバン・ファイ・ヤン(108)はこの規則を破った中の1つで、この米の借主は米価が前年非常に高かったので、バンクに米を返済せず、返済すべき自分らの米を外部へ売って、現金で返済したのである。米の市価が10kg当たり40バーツであるのに、協約で定められているのは稲10kg当25バーツを支払うだけでよいと言うのがその理由である。

裕福な農民が初期投資として自分らの余剰米を供出したことを考えると、ライス・バンク会員の協力は順調になされている。バンクの米取得には次の3つの方法がある。

- 1) 会員または裕福な農民による余剰米の供出
- 2) NVDPプロジェクトからの供出(若干量)
- 3) 国王誕生日の村民からの寄付(年行事)

11のライス・バンクの中、初貯蔵のためNVDPからの供出をうけたのはナコン・パノムのバン・タ・ボ・ソンカム(104)とロイ・エトのバン・ソン(106)にある2ヶ所だけであった。

インタビューの情報によれば、農民の間の協力は収穫後、毎年寺に米を寄付すると言う農民の伝統を形成していることが解った。寺の改築のために米を売り、また、その一部は貧しい人に与えられるのである。この伝統は東北地区の多くの区域に伝わっているもので、マハ・サラカムのバン・ボ・ノイ(107)では、ライス・バンクがこの村に出来てから1年後にこの伝統を復活させた。これは評価チームがこの村を訪ねた時は、バン・ボ・ノイ・ライス・バンクは既にその機能的運営がされていなかったことを意味するもので、バンクの倉庫は農民の米貯蔵場所のみに貸与されていたのである。

倉庫だけを提供すると言うライス・バンクの最初の実行計画は農民にとって不満足なもので、プロジェクトの開始時に貯蔵米がなかったために運営ができなかった。実行1年目は極貧の村が大体ライス・バンクの設定の対象となった。貧しい地域での生産が不安定であったため、バンクへの米返済が無く、ライス・バンク委員会はどうすることもできなかった。従って運営が中止される一方、その倉庫は農民個人の作物用倉庫として貸し出されたが、バン・ボ・ノイがその実情を示す証拠である。後に倉庫が完成してから初米がNVDPプロジェクトによって供給された。このような援助で

十分な量の米を確保したいと言う農民の願いが達せられたばかりでなく、ライス・バンク運営による利益が会員に分配された。

生産のための貯蓄グループはすべてのライス・バンクで運営しているのではなく、調査村では次の6バンクだけであった。

バン・スカ (101) ウドン・タニ

バン・ナ・ヨウ (103) サコン・ナコン

バン・ムアン・チ (105) ナコン・パノム

バン・ソング (106) ロイトエト

バン・サムレン・ベナフアン (109) コン・カエン

バン・カム・サエン (111) スリン

貯蓄グループの活動はメンバーの希望によってまちまちで、次の3つの活動がある。

- 1) 会員に資金を貸付ける。
- 2) 小さい店または販売グループを運営する
- 3) 会員に肥料を売る

調査した6つの貯蓄グループの中、サコン・ナコンのバン・ナ・ヨウ (103) が他の5グループに比べて最も進んでいた。このバン・ナ・ヨウ貯蓄グループは石鹼、洗剤、歯磨き、歯ブラシ、塩、魚用ソースなどの日用品を売小店を造って、これらの品物をその村の他の店より安く売っていた。この店の純利益は毎年々末に会員に分配された。次の2～3年の間に肥料や農器具も売る予定である。

殆どの生産用の貯蓄グループはあまり活動的でなく、大部分のグループが行っていたのはバンクの集金と貯金と言うことだけで、過去5年間での事業はゼロであった。

4.3.3. 家内工業の促進

家内工業促進が導入されたのは、収穫の終わった後で村民が余暇を利用して収入を増やせるようにするためであった。NVDPプロジェクトは職業訓練の援助に予算を割り当てたがその教課目は裁縫、仕立て、ござや竹造り、編物、機械、大工仕事、陶器、つば造りなどであった。

家内工業を行っていた8調査村での各事業内容は別表4-3-3に示すとおりである。

サコン・ナコンのバン・ノン・クン (301) とバン・ノンサノム (303) の2つの村は雨水貯蔵用の大がめ造りの訓練を受け、他の6ヶ村は現存の活動を改良する

訓練を受けていた。布染めの訓練はサコン・ナコンのバン・ファイ・ヒブ（302）、
簾造りはナコム・パノムのバン・バエン・コク（304）、草染めと図案製品はマハ
・サラカム、ミシン織機はコーン・ケエンのバン・ファイ・ヤン（306）、かごと
帽子造りはウボンのバン・ノン・ファイ・リン（307）、工具を造るかじやグルー
プはスリンのバン・ノン・ブア・ダン（308）などの村で行われていた。

これらの活動で訓練されていた村民の数は少数であり、彼等の大部分はその仕事で
いくらかの収入を得ており、製品も売れてはいたが大した金額ではなかった。

4.4. 社会経済的影響

4.4.1. NVDPプロジェクトの効果

経済的恩恵と言う意味においてはプロジェクト実行の影響は少なかった。特にビニ
ール張り池は家事用として大部分が農民に役に立っているが、小規模な家庭菜園用に
池の水を送っているバン・ナ・モン（202）、バン・ファイ・ヤン（205）やバ
ン・ノン・ナム・キエン（207）などの池を除けば、その池からの生産用の利益は
無かった。バン・ファイ・ヤン（205）の池はまた農民用の稚魚を分配するための
養魚場として利用されているが、農産物の増産と言う面から見ると、ビニール張り池
の働きは小さいものである。

ライス・バンクと生産用貯蓄グループの方が経済的影響が大きい。ライス・バンク
の目的が貧しい人々を助けるためのものである限り、会員は必要なときにいつでも粃
米を借り、収穫が終わってから低利息で返済することができるのである。農民の恩恵
は次のようにいくつかある。

- 1) 貸主に高い利息を支払う必要がない。
- 2) 未成熟米または“青田”を裕福な人に売らなくてもよい。
- 3) 農民の債務を救う。
- 4) 長い目でみれば、ライス・バンクは安い肥料や他の農機具の供給などの他の仕
事が余剰米から生まれ、純利益が会員に戻ってくる。

生産用の貯蓄グループはライス・バンクに比べると経済的影響が少なかった。たゞ
1つの成功例がバン・ナ・ヨウ（103）で、会員は家庭用として安価に必要な商品
を買うことができた。また他の貯蓄グループは同委員会々員の間で互いに不信と言う
問題に直面した。

家内工業に対してはCDD事務所による訓練プログラム中の村民の小グループに経
済的影響があった。彼等の製品は市販されているらしいが、その活動による儲けはま

だ少なく、ござ織りだけが備わっているようである。このござ織はCDDは染色技術だけの訓練をし、市場の需要に合わせた図柄を示唆し、農民が自力でグループを作り、全国的に製品を売っている。

4.4.2. 社会経済的影響の認識

観察した村の殆どすべてが農村社会で住民の殆ど全員が農作業に従事しており、主産物は米、とうもろこし、キャッサバ、ケナフと野菜類である。一般に、東北地方農産物の過去10年の生産傾向をみると、1977年から1987年までの主要作物の年平均単位面積当たり収量は全国平均より遙かに少なかった。例えば、米の場合、関連県での平均単位当たり生産高は、過去10年間の総生産高が上向き傾向を示しているのに、別表4-1-2と4-4のように全国水準の約60~80%であった。

もし農民が灌漑施設、塩害除去、改良多収穫品種々子の供給、労働生産性向上の方法などの施設または手段を得られれば、作物生産は増大するであろうと思われる。

NVDPプログラムが農民特に貧農の間で認識されはじめたことは確かで、NVDPプロジェクトの実行を通じて農民達が主として自家用生産を行っていた従来の生活様式から社会経済的状態へと徐々に変わっているのを、身をもって体験しているのである。

4.5. 各プログラム実施による影響

4.5.1. ビニール張り池

ビニール張り池は必要な水を供給できると言う第1印象を村民に与えた。プロジェクトの最も大切な面は、同じ村で働く人々のグループを新しく造ることであった。池の建設過程では、第1段階から会員の協力が必要であり、従って池の建設を完成するには、農夫達は、その活動に自分らの労働力と金（地域によっては）を供出しなければならない。これが地域社会開発の最終目標である自助努力の理念である。

第2の恩恵は、澄んだ水が農民の健康と衛生を向上させると言うことで、きれいな水が飲めることで汚水が原因の病気を排除できる。

第3は家計費の節約で、多くの地域で家庭菜園や魚の養殖が行われている。従って農民は池の近くでキャベツ、玉葱、とうがらしなどの自家用野菜をつくることができる。

ビニール池のマイナスの経済的影響は池がこわれたときに農民が協力して修理しなければならないことで、農民はその修理作業を重荷に感じて、グループから離れよう

とする。

4.5.2. ライス・バンクと貯蓄グループ

一般にライス・バンクの業績は良く、委員会々員の行動を改めるのに役に立った。農民である会員は豊かな農民が貧しい者を助ける気持で相互扶助を行っている。この方式で人々は他人への思いやりを一層感じるよになり、村中に温かい雰囲気新しく生まれた。ライス・バンクの創設以来、富裕な農民が貧乏農民を虐待し勝ちであった時代とは反対に、他地域への人々の移住が殆ど止まってしまった。さらにその上に、米が自家用として十分であれば、借金の重荷から解放されたのである。最後に余剰米のある地域に農民組織を新しく造ることによって、彼等は他の利益のある仕事を計画することができた。

マイナス面としては、農民がバンクの目的を十分理解していない場合、ライス・バンク活動に対する違反が発生することで、農民が現物で返済せずに、米価が高くなると、その現物を市価で売ろうとする場合がその例である。さらにその上に、ライス・バンクもその在庫米を市場に売却したりしたため、そのようなバンクの多くは在庫不足のために、本来の活動を止めなければならないようになった。

4.5.3. 家内工業

家内工業の地域社会への見返りの恩恵は少ない。その理由は村民が市場や原料の不足で家内工業に関心を持たなかったからであるが、一方、この活動を通じて村民は勉強することもできたのである。

(1) プラスの影響

- 1) 現存する地方の手工芸産業を優先させた職業訓練によって、技能が一層向上し、新製品を造り出すものである。このプロジェクト自体もまた職業グループの会員間で使われる機械や器具類を提供した。
- 2) 移譲された新技術により村民は地方資源を活用して自家用の家具や食品保存用設備などの製品を造ることができ、この種の活動が家事の出費を少なくするのに役立つことになる。
- 3) 散髪屋、美容師、電気工、溶接工、機械工などの恒久職業への訓練が導入されたので、村民達はしばしば自力で組織し、特別な催物に、電気を引くなどの請負仕事に従事するようになっている。
- 4) 技能が進んで簾造り、織布、ござ織りなどをはじめとして、市販可能な製品が

造れるようになり、その上、村民が市場向けの新製品を考案できるようになるはずである。

5) 技能訓練活動とは間接的に、村民の間に収入を生み出そうと言う熱意が芽生え、ると同時に、その村への帰属意識が新たに生まれた。小規模の家内工業もできて、人々がその業績を誇りに思うようになることが考えられる。

6) 村民は余暇の使い方、小規模企業の経営方法を学び、仲買人の介入を排除するなど非常に活発になっている。

しかしながら、NVD Pプログラムが実行され、また調査チームが訪ねた村々では、ビニール張り池とライス・バンクを採用して、村民たちの生活水準は良好であるように見えた。このプログラム以前には、村民は一年を通じて十分な水がなく、また乾季には水質も悪かった。ライス・バンクの場合、村民は高利貸しに高い利息を払う必要がなくなり、自分らのライス・バンクに少額を支払うだけであり、従って貯金ができるので、これから数年の中に生活も楽になるであろう。

4.7. 将来の開発計画に対する要求と勧告

4.7.1. 要求と将来の計画

農民の要求と将来の計画については農業用水資源が最も必要である。水資源開発計画には、せき（越流ダム）、ポンプ井戸、貯水池、運河、沼開拓などの数種があり、すでに水資源開発プロジェクトの計画に入っている農村では、既存プロジェクトを改善するための給水分配システムが必要である。

ライス・バンクがすでに設立されている農村の中には、ライス・バンクから借りた粃米を返済出来ない農民が存在した。これ等の農民は田植えの季節には水不足で生産が落ちるので、農業用水を必要としている。

これらの人々のグループはまた、自分らの村の製品を町の市場に売る仲買人の機能を果たし、また見返りとしていくらかの必需品を提供する農産物宣伝センターの設置に、関心を持っている。

ビニール張り池のある地域の村民もまた農業用水資源を必要としているが、その理由はこの池の水が主として家事用に使われ、池の大きさが他の用途には不十分であるからである。従ってこのグループの要求は、他の天然沼を修復して拡張することであった。またある農村では水が濁らないように、コンクリートでカバーして池を保全する必要がある。

家内工業促進グループの村民は自分らの製品を出荷する市場と製品用の良質な原料を得る場所を欲しがっているのである。

バン・パエン・コック（304）では、簾造り用の乾燥植物を保存し、一年中それが手に入るような銀行の働きをする倉庫の建設を計画している。

バン・ノン・コ（401）では、靴造り、テレビ修理、セメント・ブロック造りなどの別の職業訓練を希望している。

4.7.2. 将来の開発プログラムへの勧告

過去5年間の経験にもとづいて、将来の農村開発活動に対して次のように勧告したい。

- (1) 各プロジェクト開発活動を維持するための必要な人々に、その任務に応ずる技術的ノウハウを提供することが必要である。
- (2) 選定した計画現場の自然的・社会的条件を、開発実施の前に必ず慎重に分析すべきである。
- (3) 将来におけるプロジェクトを成功裡に実行し持続させるために、保全、管理、運営および人員の訓練に備えて、十分な予算を組むべきである。

